

武道関連施設建設に
伴う白河街区跡発掘調査

現地説明会資料

1982 9. 4

財団法人京都市埋蔵文化財研究所

- 聖護院
- 1 所在地 京都市左京区岡崎^{聖護院}内頃美町
 - 2 調査年月日 1982年6月11日 から現在経続中
 - 3 調査面積 約 1385 m² (東西47m × 南北29.5m)
 - 4 調査理由 武道関連施設建設に伴う発掘調査
 - 5 調査主体 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
 - 6 経過 (図1) この地に武道関連施設が建設されるにあたり
今回発掘調査を行なうこととなった。
当地は白河街区の中であり、「尊勝寺跡」
あるいは「歡喜光院跡」に該当する位置
にある。

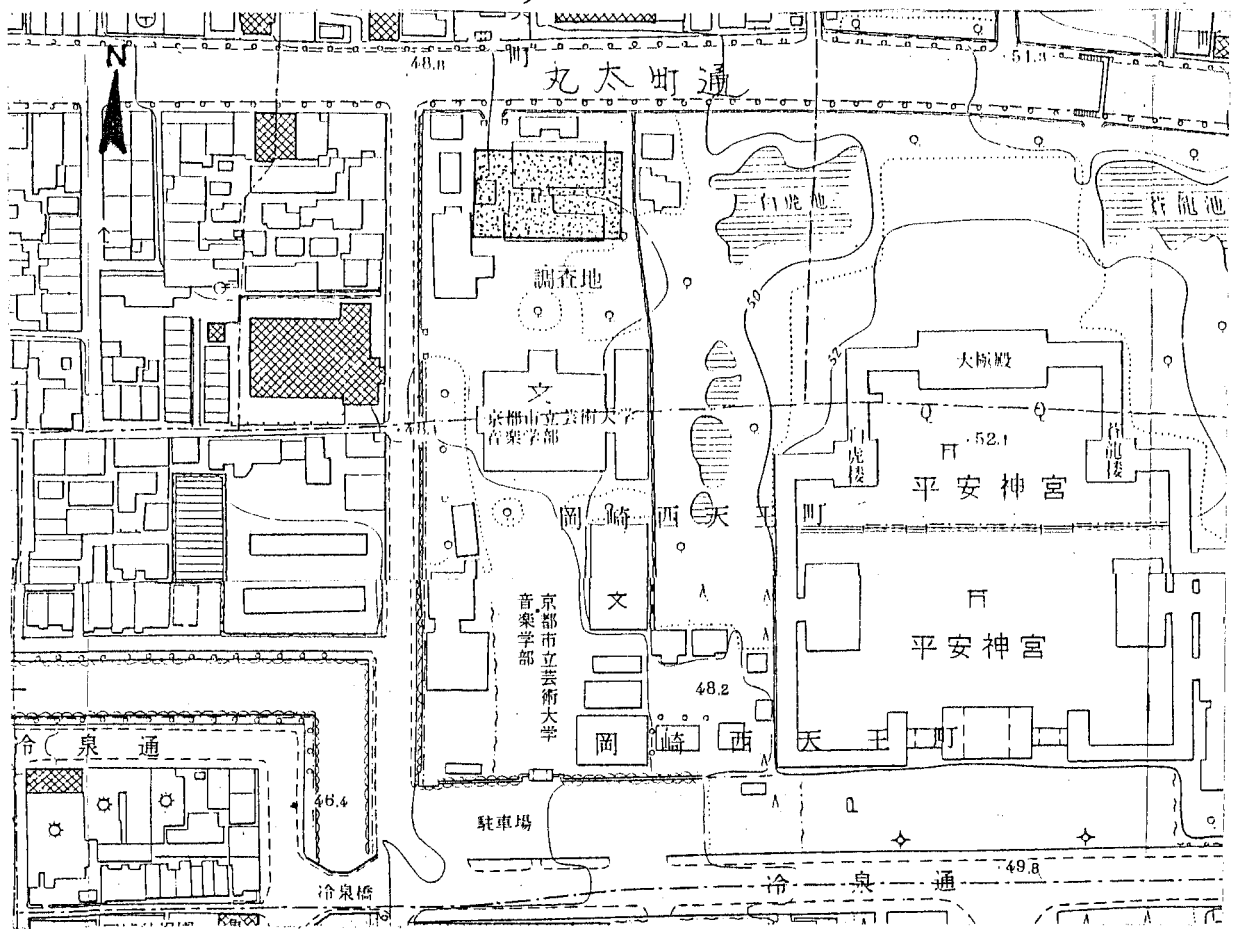


図1 調査位置図

7 歡喜光院について(図2)

- 鳥羽上皇の皇后美福門院得子の御願寺
- 永治元年(1141)2月21日供養『百鍊抄』
- 久安2年(1146)の記事では御堂が椴皮茸という。
『谷記』『本朝世紀』
- 得子没後は八条女院に伝領される。
- 建久5年(1194)8月17日の八条院御所の焼亡により八条女院が此処に避難する。『玉葉』
- 藤原定家は、八条院司を務めていた関係から『明月記』には頼出するが、安貞元年(1227)9月24日、同3年3月6日には衰退の様子か記される。
- 正和2年(1313)の『海蔵和尚紀念録』に再興の順序が記され、元享元年(1321)仏殿再興される。
- 元弘年中の兵火(1331~33)で焼亡
- 応永30年(1423)11月23日、御八講あり、美福門院の御忌が修せられた。『薩戒記』
- 応仁の乱(1467~77)によって消滅したらしい。
杉山信三『院家建築の研究』による。

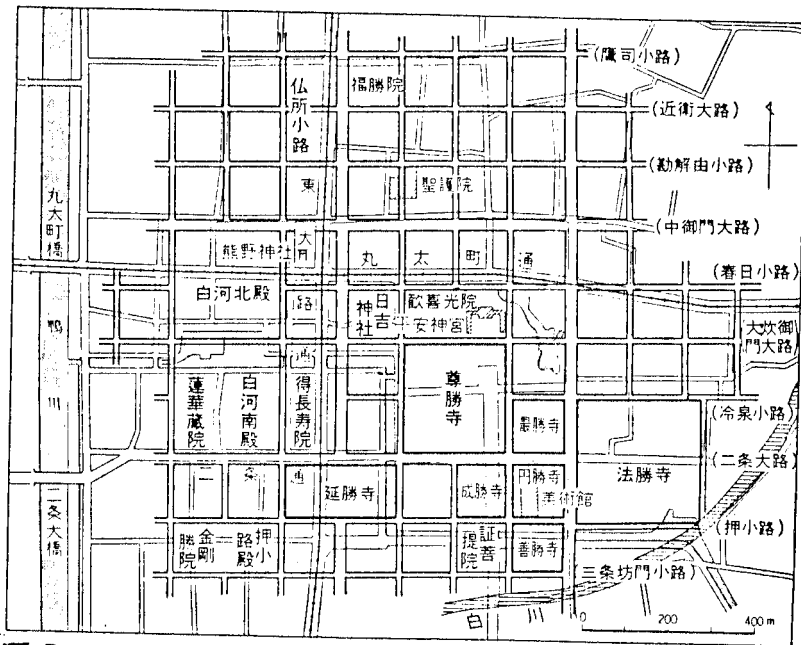


図2 六勝寺辺り 白河一帯の院政期諸寺の位置を示したもの。杉山信三氏の復元。

8 遺構^(図4)

- ・ 弥生時代・方形周溝墓2基以上を検出した。
S X 1 東西14m, 南北10.5m (溝心々)を測る。壺が5個体出土。(中期)
S X 2 東西12mを測る。甕が3個体出土。(中期)
この他 S X 2 の東側に S D 5・6 の各溝を検出。土器の細片出土。
- ・ 平安時代中期・土壇1基を検出した。
S K 6 10世紀の土器が出土。
- ・ 平安時代後期・井戸5基・溝4条・土壇・柱穴多数。
S E 1, S E 2, S E 70, S E 87は方形木枠組み。
S E 1, S E 70は井戸底部に曲物を据る。
S E 15は石組み。
S D 7は S D 6に連続するものと思われる。
S D 8からは中期以前の瓦が多量に出土。
S K 15, 竈と思われる遺構。石・瓦積み。
S B 1, 南北3間(7.2m) 東西2間(3.7m)
- ・ 鎌倉・室町時代・土壇・柱穴多数。
S K 12, S K 16, S K 23, S K 24は礫を多量に含む。
土器の他鉄釘が出土。墓であろうか。
その他多数の土壇は砂取り穴と思われる。
柱穴は多数検出したが、並びは検討中。

9 遺物^(図3) 遺物コンテナで170箱程出土した。大半は瓦である。

- ・ 弥生時代中期 (S X 1, S X 2) 壺, 甕, 磨製石剣。
- ・ 平安時代前・中期 (S D 8, S K 6) 土器, 瓦。
- ・ 平安時代後期 (各遺構より出土) 土器, 陶器, 瓦。
- ・ 鎌倉・室町時代 (各遺構より出土) 土器, 陶器。

10 ま と め

- 1) 方形周溝墓の検出によって弥生時代中期には当該地
が墓地として利用されていたことが判明した。
- 2) S D Bからは平安時代中期以前の瓦が多量に出土し、
付近に寺院跡の存在した可能性がある。なおS D B
の埋没時期は平安時代後期であることが出土土器よ
り判明しているが、S K 6は出土土器より確実に平
安時代中期に入る遺構である。
- 3) 平安時代後期(12世紀)には、建物、井戸、溝、竈
等の検出により活発な土地利用が行われていた
ことが判明した。またこの時期の出土瓦について
は「尊勝寺跡」出土瓦と同様に様々な型式を含む。

MEMO

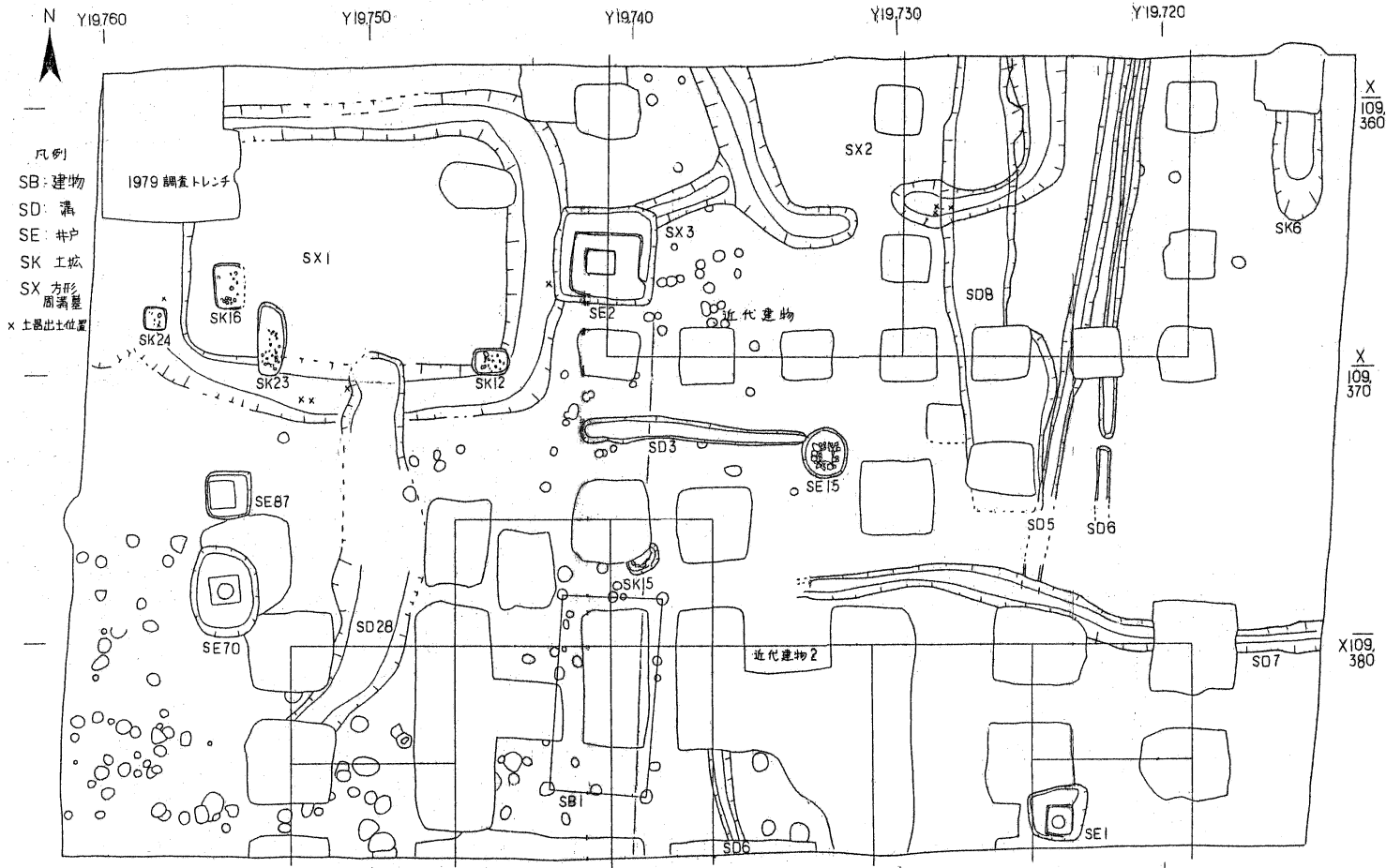


図4. 遺構配置略図 (1:200)

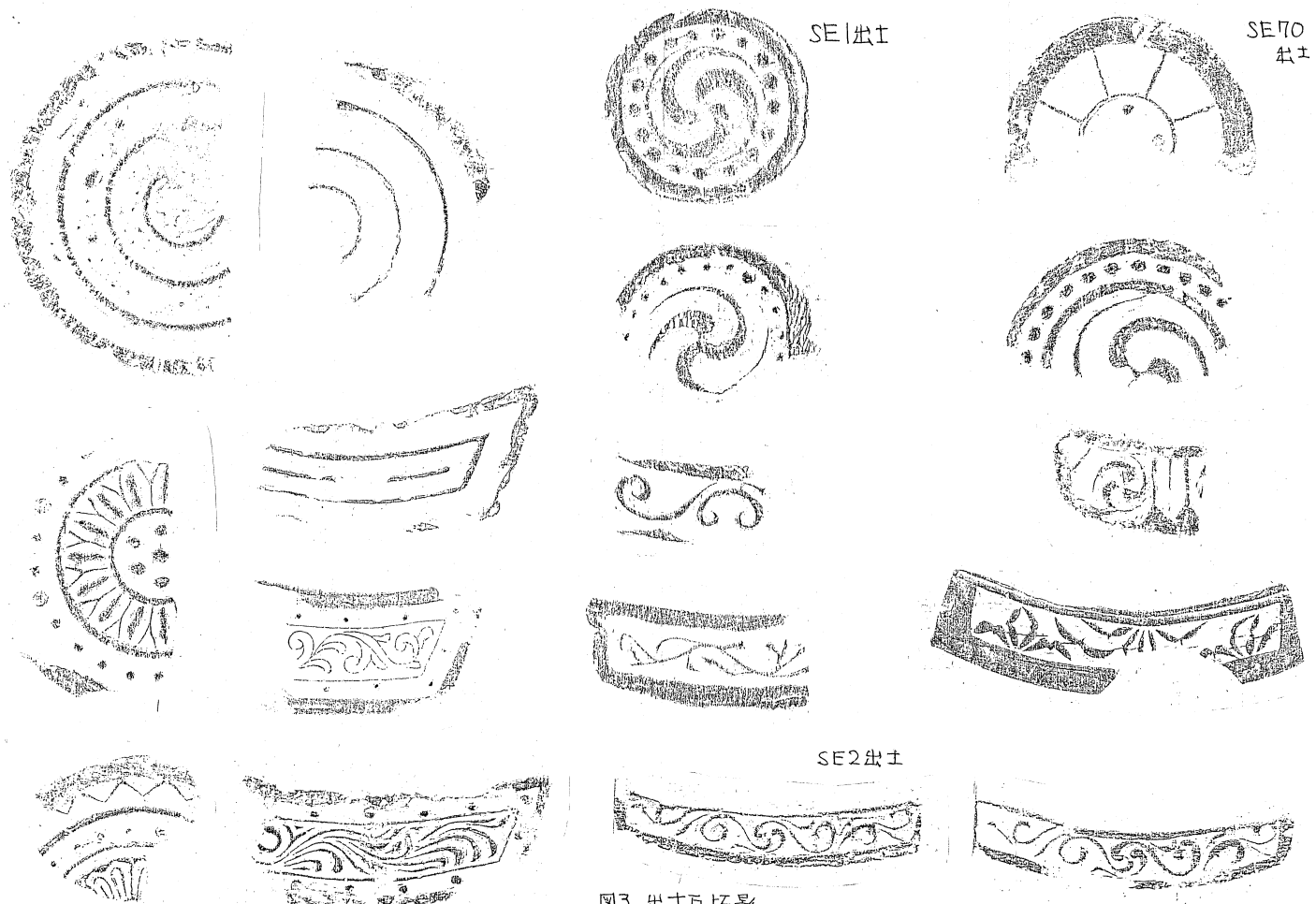


図3. 出土瓦拓影

